

「日々の理科」(第2639号) 2021, 10, -4

「二度咲きしたキンモクセイ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

秋の到来を、街に漂うキンモクセイの香りで感じる方も多いと思う。私もその一人である。今年のキンモクセイは9月中旬に満開になり、一週間ほどであったという間に散ってしまった。大学構内のイチョウ並木の突き当り(大学講堂前)にも、大きなキンモクセイの樹があるが、これも9月中旬に満開になり、教室の中にまで良い香りが漂っていた。



そして週明けの月曜日、やはりキンモクセイは二度目の花をつけていた。小石川の自宅を出た時から、金木犀の香りを感じていたので、職場について大学構内のキンモクセイを確かめに行ったら、満開だった。



私は9月中旬にキンモクセイが満開になった時、今年は花の付き方にやや勢いが無いと感じていた。こういう時は「二度咲き」をする可能性があると思ってい

た。2017年にキンモクセイの花の勢いが弱かった時、同じように「二度咲き」をしたのである。その時は一回目、二回目とも同じような咲き方で、いずれも「一回咲き」の時よりも花の数が少なかった。



ところが今回は、二度目のほうが花の勢いが良い。写真は枝の先端に、まだ一回目の枯れた花弁が残っている上に、二度目の花が咲いている。一部の枝だけが二度咲きしたのではなく、樹の頂上まですべて二度目の花をつけている。



キンモクセイの枝の下を見ると、一回目に散った花がたくさん落ちていた。これも間違いなく二度咲きした証拠である。ここ数年二度咲きはしていないので、2017年以来4年ぶりの二度咲きということになる。

キンモクセイの二度咲きは、それほど珍しい現象ではない。どうやら数年に一度、東京だけに留まらず、関東一円で一斉に二度咲き現象が見られるらしい。インターネット上でも、今年のキンモクセイは関東地方を中心に、広く二度咲き現象が起きていることがわかってきた。